AnyWireASLINKSystem 製品説明書

ASLINKAMP（アズリンク）[アナログ入力ユニット(7セグ付非絶縁タイプ)]

L□-A12W

【安全上のご注意】

安全にお使いいただくため、次のような記号と表示で注意事項を示していますので必ず守ってください。

⚠警告 この表示は、取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

⚠注意 この表示は、取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性、および物的損害のみの発生が想定される内容です。

⚠警告

○システム安全性の考慮
本システムは、一般産業用であり安全確保を目的とする機器や事故防止システムなど、より高い安全性が要求される用途に対して適切な機能を持つものではありません。
○設置や交換作業時は、必ずシステムの電源を切ってください。
○出力ユニット、出力回路を含む混合ユニットにおいて、定格以上の負荷電流または負荷短絡などによる通過電流が長時間継続して流れた場合、発煙、発火の恐れがありますので、外部にヒューズなどの安全装置を設けてください。

⚠注意

○システム電源
DC24V安定化電源を使ってください。安定電源でない電源の使用はシステムの誤作動の原因となります。
○高圧線、動力線との分離
AnyWireASLINKは高いノイズマージンを有していますが伝送ラインや入出力ケーブルは高圧線や動力線と離して敷設ください。
○コネクタ接続、端子接続
・コネクタ、接続ケーブルにストレスが掛からないようまたストレスが加わった場合でも外れたりしないようケーブル長さ、ケーブル固定方法などに配慮してください。
・コネクタ内部、また端子台には金属くずなどが混入しないよう注意してください。
・金属くずによる短絡、誤配線は機器に損傷を与えます。
○機器に外部からのストレスが加わる様な設置は避けてください。故障の原因となります。
○伝送ラインが動作している時に、伝送ラインとスレーブユニットの接続を切断したり再接続したりしないでください。誤作動の原因となります。
○AnyWireASLINKは下記事項に定められた仕様や条件の範囲内で使用してください。

【保証について】

■保証期間
納入品の保証期間は、ご注文主のご指定場所に納入後１箇年とします。

■保証範囲
上記保証期間中に、本取扱説明書にしたがった製品仕様範囲内の正常な使用状態で故障が生じた場合は、その機器の故障部分の交換または修理を無償で行ないます。
ただし、つぎに該当する場合は、この保証範囲から除外させていただきます。
(1)需要者側の不適当な取り扱い、ならびに使用による場合。
(2)故障の原因が納入品以外の事由による場合。
(3)納入者以外の改造、または修理による場合。
(4)その他、天災、災害などで、納入者側の責にあらざる場合。

ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

■有償修理
保証期間後の調査、修理はすべて有償となります。
また保証期間中においても、上記保証範囲外の理由による故障修理故障原因調査は有償にてお受けいたします。

【型　式】

LA-A12W	アナログ入力ユニット（7セグ付非絶縁タイプ）	1CH（親機）
LB-A12W		1CH（子機）

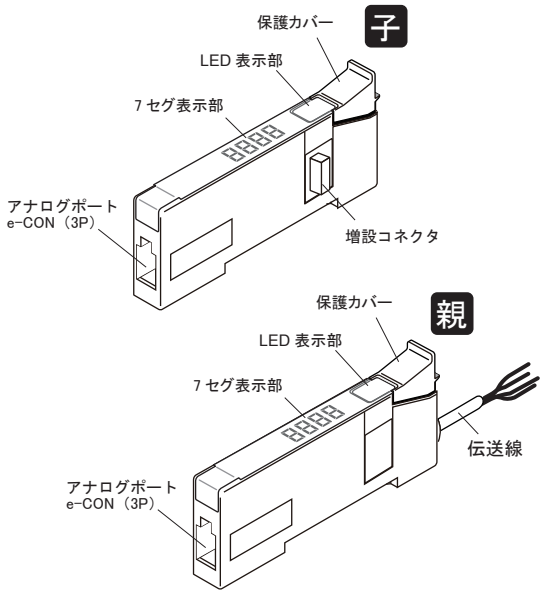
【機　能】

機　種	ASLINKAMP　2線式（非絶縁）	
測定入力レンジ	電圧　:0-10V、0-5V、1-5V 電流　:4-20mA、0-20mA	
分解能	1/16000	
機　能	入力仕様設定	○
	動作モード	○
	アラーム判定時間	×
	アラーム判定値	×
	センサレベル低下	×
	伝送信号レベル低下検知	○
	設定値読み出し、書き込み	○
	小型	○
	防滴（IP65）	×

【パッケージ内容】

LA-A12W（親）	ユニット本体 …1
LB-A12W（子）	ユニット本体 …1

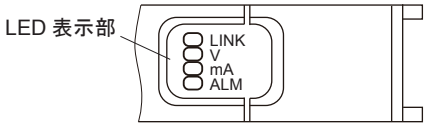
【各部の名称】



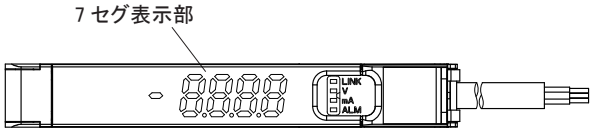
【表示部】

本体の動作状態を LED で表示します。

表示名	表示区分	内　容
LINK（緑）	電源 / 伝送表示	伝送信号を受信した時点滅します。
V（橙）	電圧入力表示	電圧入力設定された時点灯します。
mA（橙）	電流入力表示	電流入力設定された時点灯します。
ALM（赤）	ユニット障害表示	ユニットの障害状態を表示します。



入力アナログ値、 入力異常、 伝送信号電圧低下、 基準点シフトモード動作のメッセージを 7 セグ表示部で表示します。

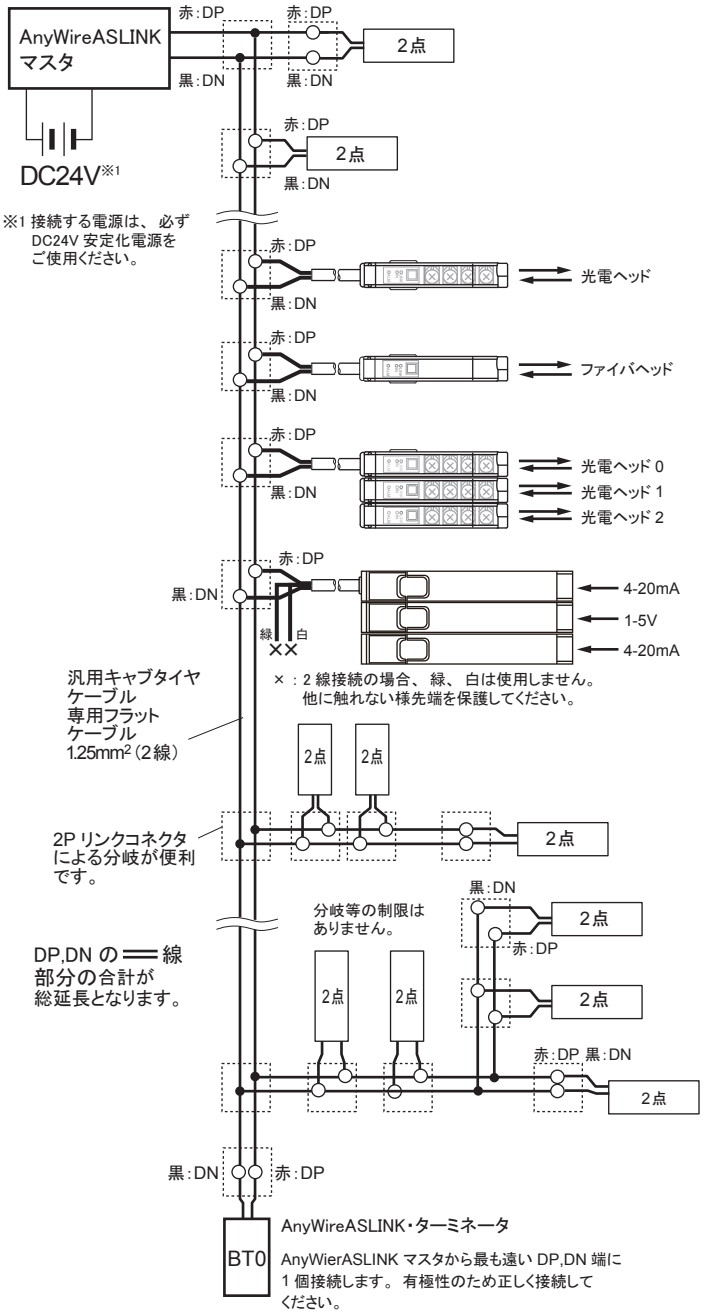


表示部は、 親機、 子機とも同じです。

【接続例】

AnyWireASLINK は、 負荷電流に応じて 2 線式ターミナルと 4 線式ターミナルを選択できます。
この説明書は、 2 線式 （非絶縁） ターミナルを対象に記述しています。
負荷電流が少ない場合、2 線式 （非絶縁） ターミナルを使用する事で、ローカル給電不要で簡便な配線が可能です。
また、負荷が集中する箇所や接続台数を優先させる場合には、ローカル給電ができる4線式 （絶縁） ターミナルとの混在も可能です。
なお、外部電源を使った入力、負荷の駆動を行う場合は、必ず4線式（絶縁）ターミナルを使用してください。
混在させる場合は、別途4線式 （絶縁） ターミナルの製品説明書をご覧ください。

■2線式（非絶縁）ターミナルのみでの接続

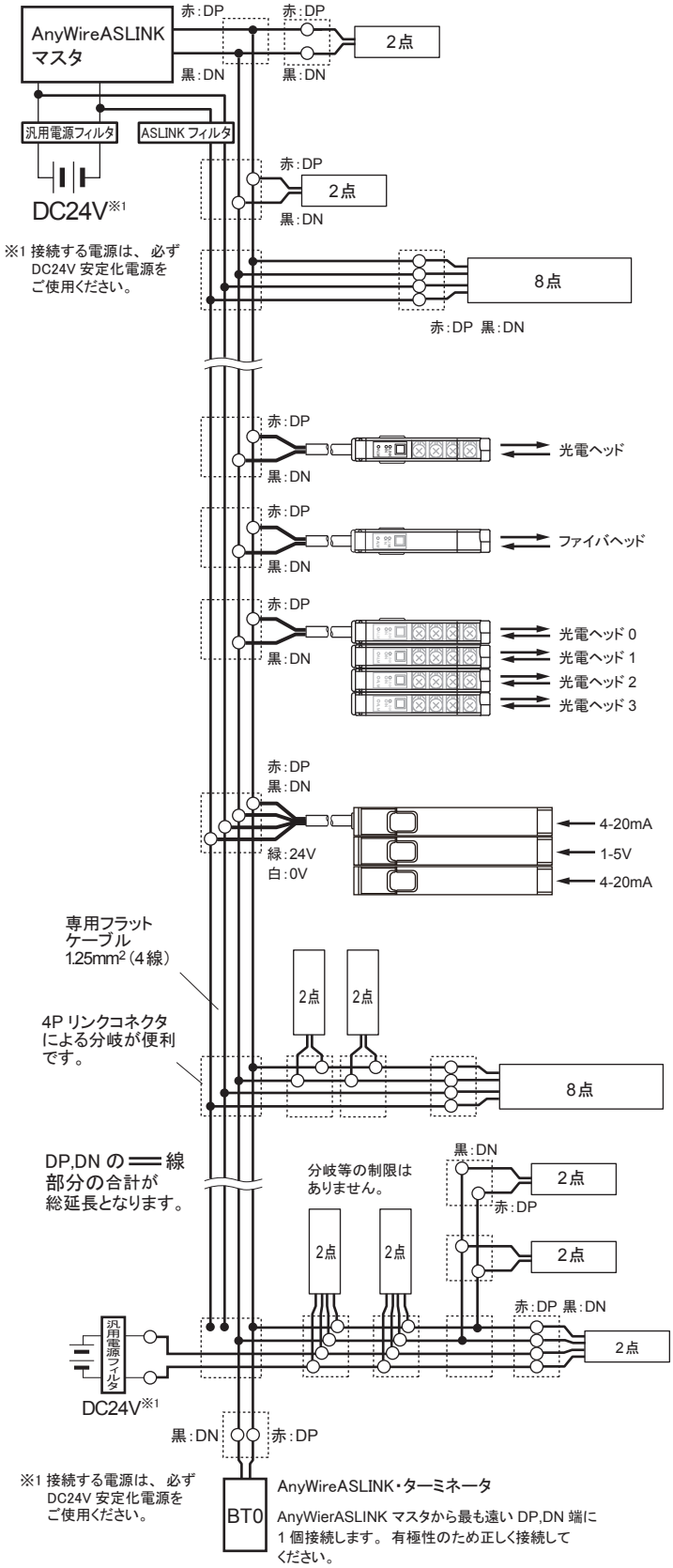


■伝送線の線径、距離と供給電流の関係 （表1）

伝送線（DP、DN）の線径	伝送線（DP、DN）供給電流値		
	総延長50m以下	総延長50m～100m	総延長100m～200m
1.25mm²	MAX 2A	MAX 1A	MAX 0.5A
0.75mm²	MAX 1.2A	MAX 0.6A	MAX 0.3A

注意
・伝送線線径、伝送距離と許容供給電流は、(表1)の内容を参照し適正な範囲で使用してください。
・AnyWireASLINKマスタのDP、DNと各機器のDP、DNを同じ記号どうし正しく接続します。
・分岐長、分岐数に制限はありません。
・ターミナルに付属しているケーブル長も「総延長」に含めてください。
・AnyWireASLINKマスタから一番遠い伝送線の端末にターミネータ「BT0（有極性）」を接続してください。

■2線式（非絶縁）、4線式（絶縁）ターミナルの混在例



注意
AnyWireASLINKで使用している電源とは別の電源で制御されている負荷（入出力ポート等）と接続する場合は、必ず4線式（絶縁）ターミナルを使用してください。
誤動作の原因となります。

【4線式（絶縁）ターミナル併用時の注意点】

供給する電源系統において DP,DN,24V,0V 線の併走が総延長 50m を超える場合は、「ASLINK フィルタ〔型式　ANF-01〕」または「コーセル株式会社〔型式　EAC-06-472〕」を併走が始まる位置の 24V,0V に直列接続してください。
耐ノイズ性の向上、ならびに伝送信号によるクロストークの影響を抑え、信号の安定化を図ります。
マスタ用電源から一括供給する場合、ローカル電源から供給する場合いづれも挿入対象となります。

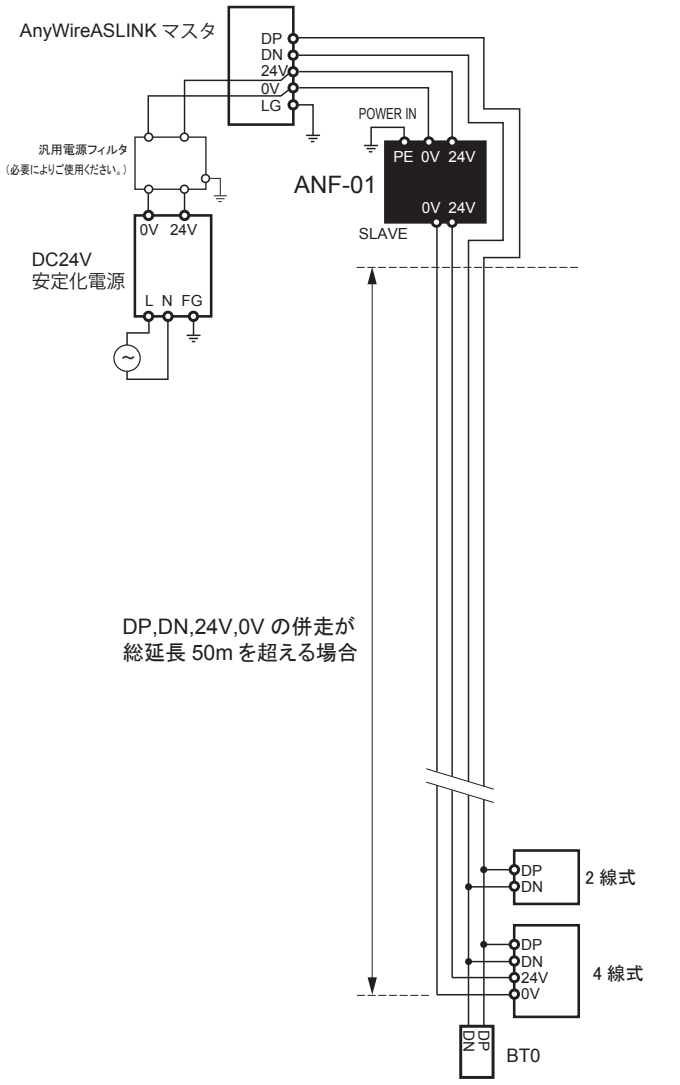
CE 規格に準拠する場合は、敷設方法、距離に係わらず「ASLINK フィルタ〔型式　ANF-01〕」を挿入してください。

■フィルタ許容電流値

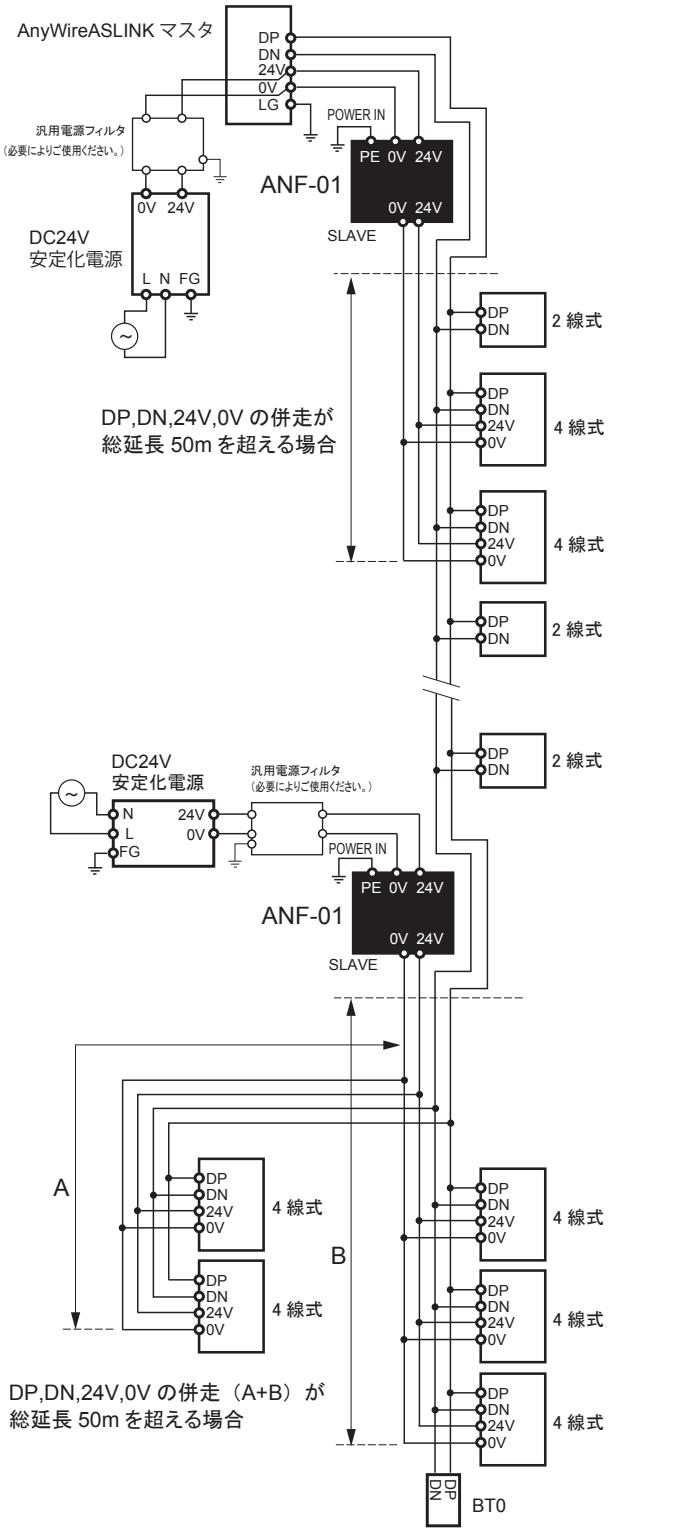
機種	型式	許容電流
ASLINK フィルタ	ANF-01	最大 10A/DC24V
コーセル株式会社フィルタ	EAC-06-472	最大 6A/DC24V

■エニイワイヤ　型式：ANF-01 接続例

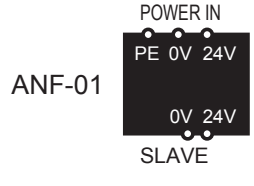
①一括給電



②ローカル給電・分岐



■図中のフィルタ表記



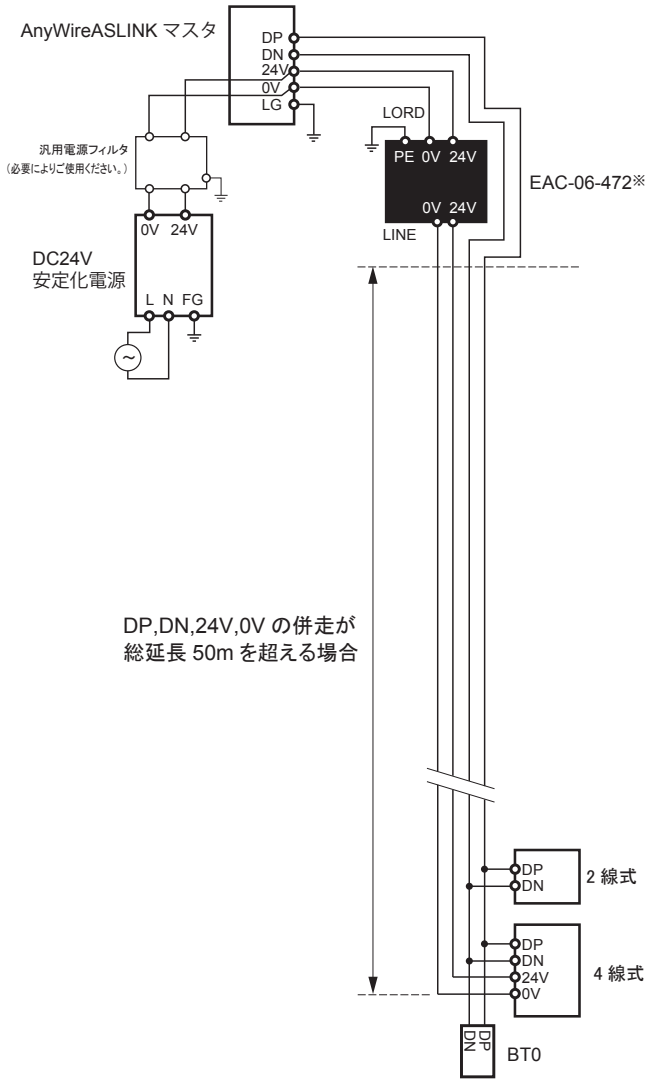
ANF-01 の詳細は
ANF-01 製品説明書を
御覧ください。

【4線式（絶縁）ターミナル併用時の注意点】

■コーセル株式会社　型式：EAC-06-472 接続例

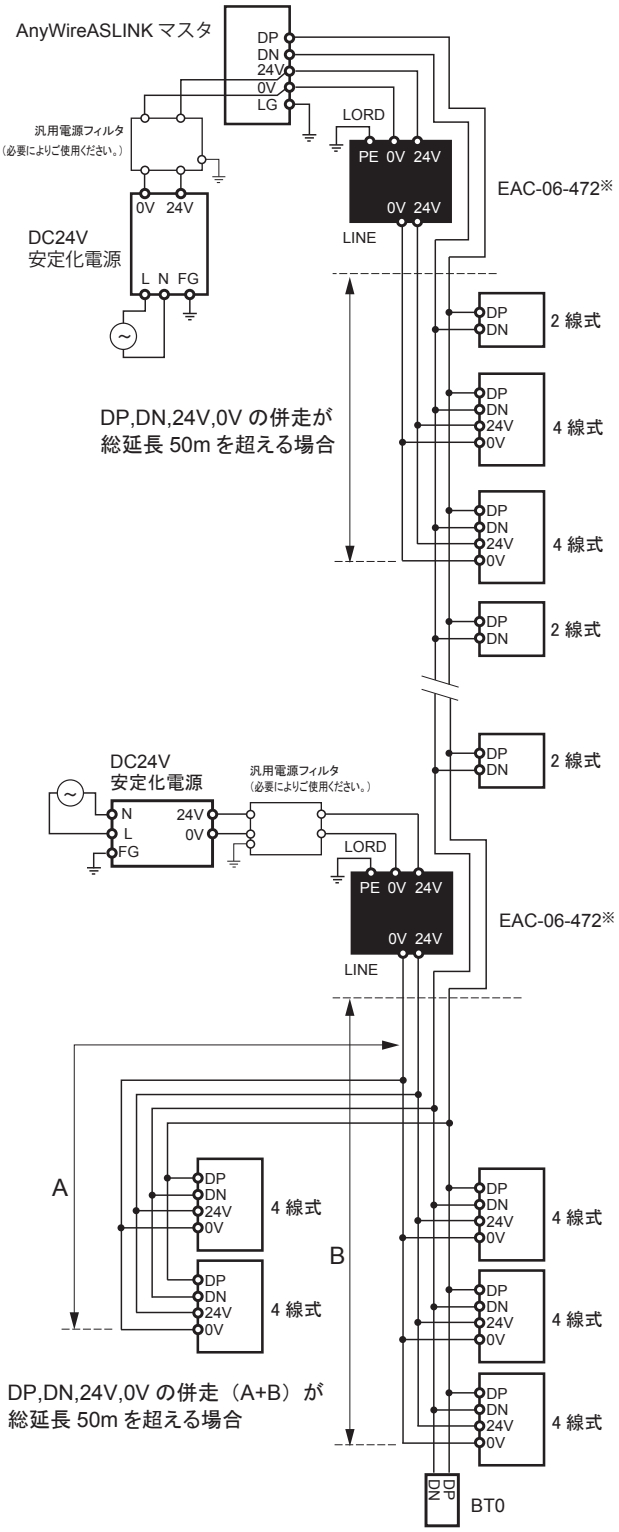
①一括給電

※このフィルタを使用する場合は、 LOAD、 LINE の位置にご注意ください。

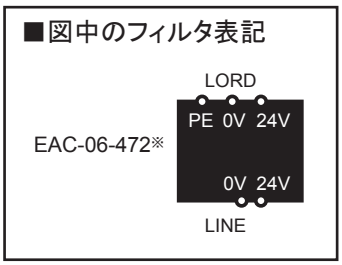


②ローカル給電・分岐

※このフィルタを使用する場合は、 LOAD、 LINE の位置にご注意ください。



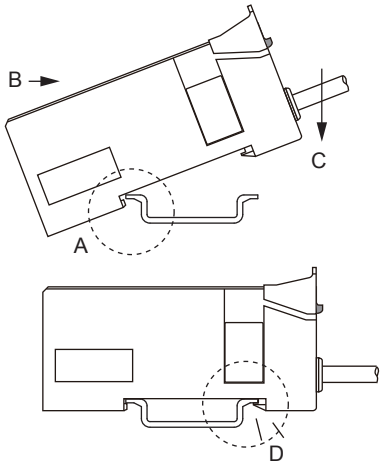
■図中のフィルタ表記



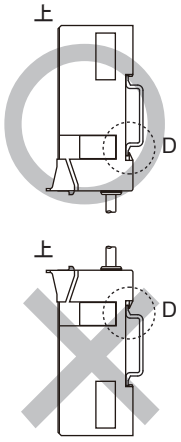
【取り付け】

取り付け、 取り外し方法は、 親機、 子機とも同じです。 親 子

A 側の固定爪を DIN レールに掛けます。
そのまま B 方向に引き、 反対側を可動爪 D がカチツと言うまで C 方向に押し下げてください。

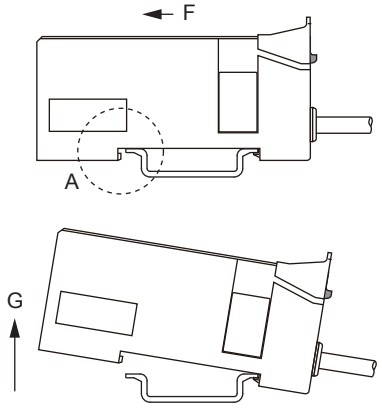


縦方向に取り付ける場合は可動爪が DIN レールの下側になるようにしてください。



【取り外し】

本体を F 側にずらし、 A の固定爪を DIN レールから外します。
そのまま G 方向に上げ、 本体を浮かせ取り外してください。



【設置場所について】

保護構造ではないので、設置環境が以下の場合はできるだけ外的ストレスが直接ユニット本体に加わらない様、ご配慮をお願いします。

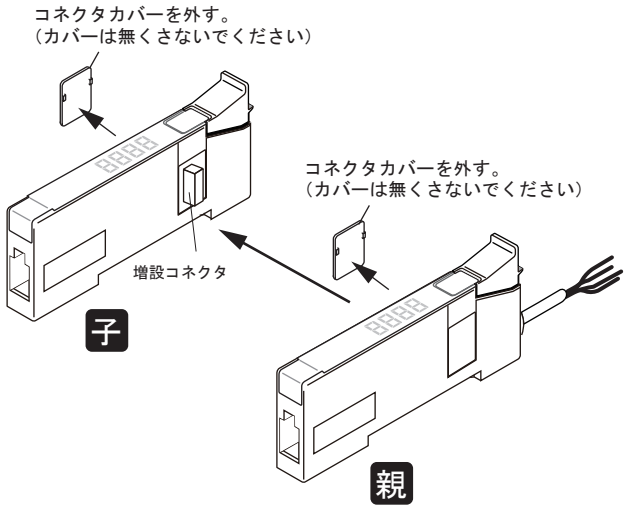
- 振動や衝撃が常時ある場所
- 粉塵に直接晒される場所
- 金属屑、スパッタ等導体が直接本体にかかる場所
- 結露する場所
- 腐食性ガス、可燃性ガス、硫黄を含む雰囲気がある場所
- 高電圧、大電流のケーブルの近く
- サーボ、インバータ等高周波ノイズを発生するケーブルコントローラの近く

【ご使用時の注意】

このユニットを伝送線に接続する時、また親機に子機を増設する時は、伝送信号の供給を停止した状態で行ってください。
活線状態のまま接続を行うと、ユニットが接触時のチャタリングを異常と検出し停止する可能性があります。

【増　設】

このアナログ入力ユニットは、 親機に子機を増設できます。
親機のコネクタカバーを外し、 内蔵の増設コネクタに子機を接続します。



最大増設台数は、 下記の 3 項目を満たす範囲で決定してください。

増設上の制限：親機1台に対し、子機最大32台
親機+子機 DP-DN消費合計最大0.8A
親機+子機 24V,0V消費合計最大0.8A
を同時に満たす

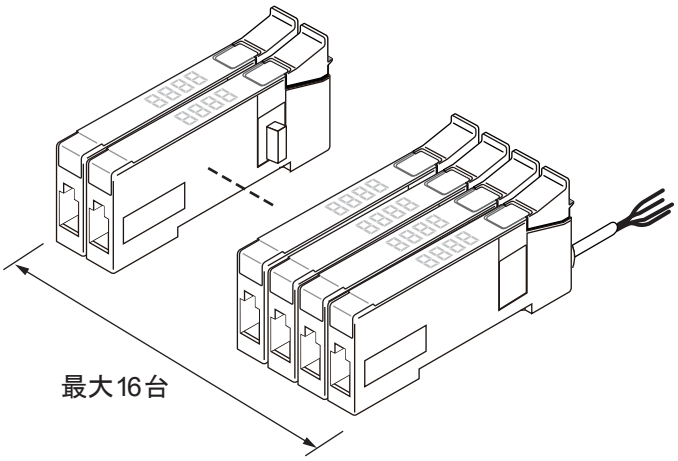
点数上の制限：接続機器の占有点数合計が、マスタ設定による1系統当たりの最大伝送点数を超えない台数

電流上の制限：全接続機器のDP-DN消費合計が、構成条件による1系統の最大許容供給電流を超えない台数

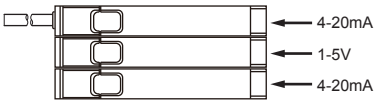
例） 1 系統当たり、 LA-A12W、 LB-A12W のみ接続
伝送距離 50m （総延長）、 伝送線線径 1.25mm² →許容供給電流 2A
24VL,0VL の外部供給無し の場合

増設上の制限：DP-DN 10mA / 台
24VL-0VL(最大 100mA) 消費電流合計＝0mA
→ 800mA÷(10mA+0mA)＝80 台
点数上の制限：16 点占有 / 台 → 256 点 ÷16 点＝16 台
電流上の制限：DP-DN 10mA / 台 → 2A÷0.01mA＝200 台

この事から、 16 台接続可能と判断できる。
よって、 子機最大増設台数は 15 台となる。

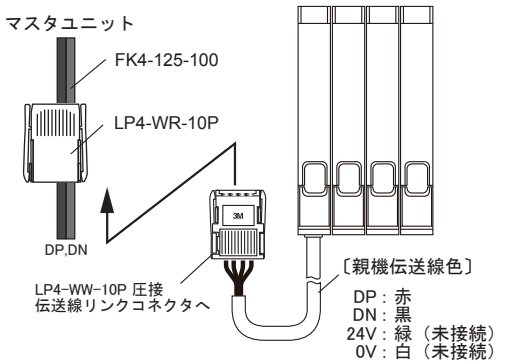


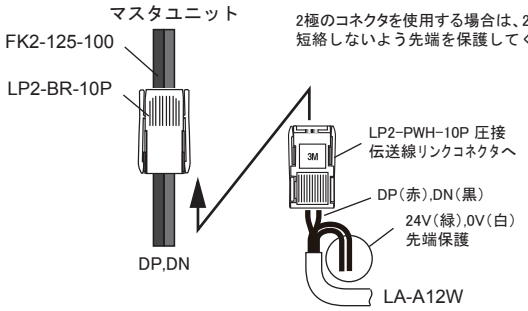
増設内でレンジが混載しても構いません。



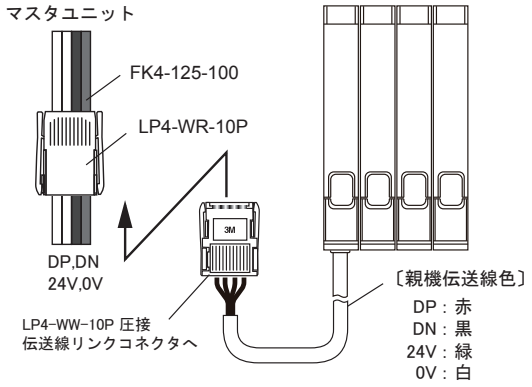
【伝送ライン接続】

アナログ入力ユニット親機の伝送線をマスタからの伝送線に接続します。
このユニットの 24V,0V は、システム拡張時のもので現状使用しません。
よって、伝送線は DP,DN のみの接続で動作します。





伝送線が DP,DN、24V,0V の 4 線の場合は、24V.0V が接続されても
問題ありません。



■リンクコネクタピン配列

ピン番号	内容	線色
1	DN	黒
2	DP	赤
3	0V	白
4	24V	緑

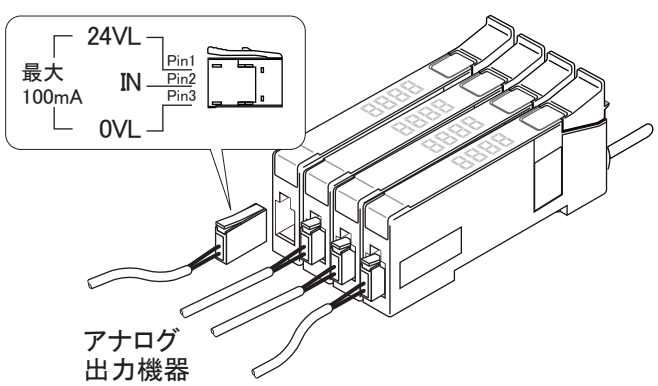
LPコネクタ（リンクコネクタ）は雌雄同体のコネクタです。
同一種のコネクタ同士を結合するだけで「接続」「分岐」が簡単にできます。

【アナログ出力接続】

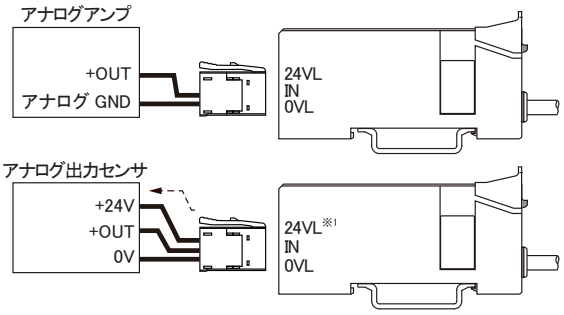
■アナログ側適応コネクタ

例）ミニ・クランプ ワイヤーマウントプラグ　37103 − **** − *00 FL
（スリーエムジャパン株式会社）

■アナログ側ピン配列

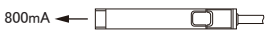


■アナログ側接続例

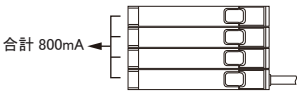


※1：センサ側に電源供給します。（増設分を含め供給合計で最大 800mA まで）

例）1 連の場合



例）4 連の場合



【各種設定】

このユニットは、ご使用に際し次の設定が必要です。

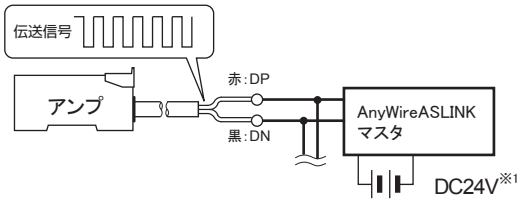
■設定する項目

アドレス設定 0〜254	パラメータ設定　01：入力仕様設定 02：基準点シフトモード 03：移動平均回数 17：アドレス・パラメータ自動設定（親機のみ）

■アドレスライタ操作の共通手順

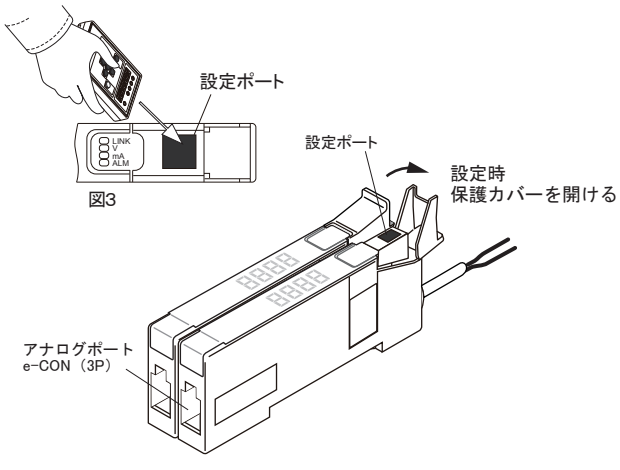
必ず AnyWireASLINK マスタユニットに接続して使用してください。
操作には アドレスライタ ARW-03（Ver.2.10 以降）、ARW-04（Ver.04-1.00 以降）が必要です。

1. AnyWireASLINK スレーブを AnyWireASLINK マスタユニットに接続します。
   初期設定、パラメータ、アドレス等の書き込み、読み出しには伝送信号が必要です。
   ターミナルの伝送線（DP,DN）に伝送信号を供給した状態でアドレスライタにて設定を行ってください。



※1 接続する電源は、必ず DC24V 安定化電源をご使用ください。
UL 規格に準拠する場合は、必ず「NEC Class2 出力」の
DC24V 安定化電源をご使用ください。

2. 設定は、全ての AnyWireASLINK 機器に対し必要です。
   設定するアナログ入力ユニットの保護カバーを開き、図3の通り設定ポート（図3）にアドレスライタを向けて設定します。
   設定しないユニットのカバーは閉めておいてください。



【データ構成】

データ(1ワード)															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
符号	MSB														LSB
	変換データ(15bit バイナリデータ)														

最大出力デジタル値： −200～16200(FF38Hex～3F48Hex)
有効出力デジタル値： 0～16000(0Hex～3E80Hex)

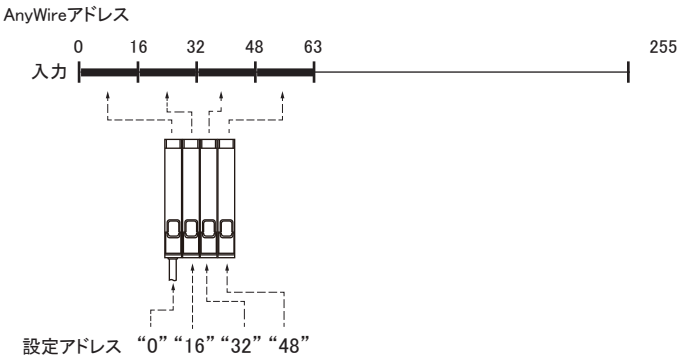
【アドレス設定】

前述「アドレスライタ操作の共通手順」にあるように、設定するAnyWire ASLINKユニットに伝送信号を供給した上で、"255"以外のアドレスを設定します。
AnyWireのアドレスは、そのユニットへ伝送フレームの何番目から占有させるかの先頭番号を設定するものです。
重みは「ビット」になります。

1. アドレスライタで【Ad.】を選択し、【↑】【↓】キーで設定するアドレスを表示します。
2. 設定するアドレス番号を表示した状態で【SET】キーを押下します。
3. 書き込みが成功するとアドレスライタに「Good」が表示されます。

> ⚠注意
> ユニット出荷時、非設定を示すアドレス番号「255」を設定しています。
> この状態でアドレス自動認識操作(マスタユニットのマニュアル参照)をしないでください。
> またアドレス番号設定値が「255」の場合、ユニットは、入出力動作を行いません。
> 必ずアドレス番号設定値を「0～254」の範囲内に設定してから使用してください。
>
> アドレス番号を「254」に設定し占有する「254」「255」については入出力動作します。

例) 4 連アナログ入力ユニットのアドレス対応



【パラメータ設定】

前述「アドレスライタ操作の共通手順」にあるように、設定するアナログ入力ユニットに伝送信号を供給した上で、各パラメータを設定します。

■入力仕様設定

アナログの入力仕様を設定します。

1. アドレスライタで【SELECT】キー を押下し、【WRITE / DIRECT WRITE】を選択します。
2. 【↑】【↓】キーの操作により【01.】を選択します。
3. 【↑】【↓】キーで対応する値 (下表参照) を表示し、【SET】キーを押します。

パラメータ	デフォルト値	値	意味
【01.】 入力仕様設定	0	0	0-10V入力
		1	0-5V入力
		2	1-5V入力
		3	0-20mA入力
		4	4-20mA入力

入出力仕様設定時、 設定された仕様を表示します。

入力仕様	値	7 セグ表示	LED 表示
0-10V	0	0-10	V 点灯
0-5V	1	0-5	V 点灯
1-5V	2	1-5	V 点灯
0-20mA	3	0-20	mA 点灯
4-20mA	4	4-20	mA 点灯

LED 表示: LINK / V / mA / ALM

伝送信号を受信し起動すると、 約 3 秒間設定された入力仕様を表示しその後実際の入力値表示に切り替わります。

■移動平均回数

アナログ入力の移動平均回数設定です。
設定回数＋1 回の平均値を採用します。

1. アドレスライタで【SELECT】キー を押下し、【WRITE / DIRECT WRITE】を選択します。
2. 【↑】【↓】キーの操作により【03.】を選択します。
3. 【↑】【↓】キーで設定する値を表示し、【SET】キーを押下します。

パラメータ	デフォルト値	値	意味
【03.】 移動平均回数	0	0	移動平均回数 1回
		0～31	設定範囲 0～31(最大32回の平均)

■アドレス・パラメータ自動設定(親機のみ)

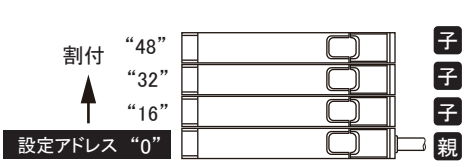
親機に設定されたアドレス、 パラメータ設定を子機に自動反映させる機能です。

1. アドレスライタ にて【SELECT】キー を押下し、【WRITE / DIRECT WRITE】を選択します。
2. 【↑】【↓】キーの操作により【17.】を選択します。
3. 【↑】【↓】キーで設定する値を表示し、【SET】キーを押下します。

パラメータ	デフォルト値	値	意味
【17.】 アドレス・パラメータ自動設定	0	0	自動設定無効 親機、子機毎にアドレス・パラメータ設定します。
		1	アドレス自動設定 アドレスのみ、親機から増設された子機へ直列に自動割付します。
		2	パラメータ自動設定 パラメータのみ、親機から増設された子機へ自動反映させます。
		3	アドレス・パラメータ自動設定 アドレスは、親機から増設された子機へ直列に自動割付します。 パラメータは、親機から増設された子機へ自動反映させます。

この自動設定モードを有効 (値 1, 2, 3) にすると、 親機へ設定したアドレスやパラーメータが子機へ自動割付されます。
ただし、「基準点シフトモード」は、 ON にするか OFF にするかのみ反映されます。
基準値の更新は個別に設定します。

例) パラメータ 17
値 1 の場合



■基準点シフトモード

接続したアナログ出力機器とこのアナログ入力ユニット間のオフセット誤差を調整する機能です。
設定した基準点調整値だけ基準点をシフトします。
各入力仕様における基準点は以下の通りです。

入力仕様	パラメータ 1 変数	基準点
0–10V	0	0V
0–5V	1	0V
1–5V	2	1V
0–20mA	3	0mA
4–20mA	4	4mA

1. アドレスライタで【SELECT】キー を押下し、【WRITE / DIRECT WRITE】を選択します。
2. 【↑】【↓】キーの操作により【02.】を選択します。
3. 【↑】【↓】キーで対応する値 (下表参照) を表示し、【SET】キーを押します。

パラメータ	デフォルト値	値	意味
【02.】 基準点シフトモード	0	0	基準点シフトモードOFF 0→1 に書き換える度、その時点で接続中の機器に合わせ、新しい基準点に更新
		2	基準点シフトモードON 基準点シフトモードOFF時に設定した基準点で固定され、変換動作が開始されます。

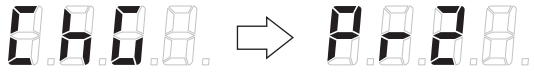
「アドレス・パラメータ自動設定」使用時は、 基準点シフトモードの ON/OFF のみ子機が追従します。 基準点の更新は各ユニット毎に行ってください。

パラメータ 2 の値を 0→1 に書き換えると、 基準点シフトモード時の 7 セグ表示はパラメータ 1 で設定された入力仕様を示します。

入力仕様	7 セグ表示	LED 表示
0–10V	0.10	V 点灯
0–5V	0.5	V 点灯
1–5V	1.5	V 点灯
0–20mA	0.20	mA 点灯
4–20mA	4.20	mA 点灯

この時入力されている電圧または電流値の 32 回平均結果が基準点調整値となります。
AnyWireASLINK 伝送には、「測定値 – 基準点調整値」が入力データとして格納されます。
パラメータ 2 の値を 2 に更新すると基準点シフトモードに変わります。

パラメータ 2 の値が 1 になっている間、 7 セグ表示は「CHG」⇄「Pr2」を交互に表示します。



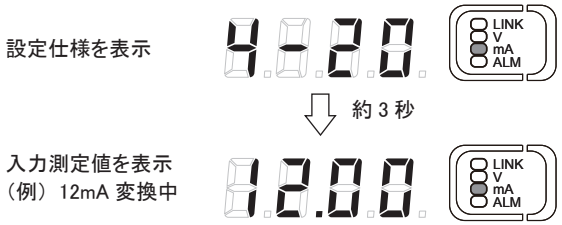
パラメータ 2 の値 0→1	現在の入力仕様を表示 (約 1 秒間)
パラメータ 2 の値 1 のまま	「CHG」⇄「Pr2」を交互表示に変化
パラメータ 2 の値 1→2	基準点シフトでの変換動作に移行し、 入力されるアナログ値を表示

【動作中の表示例】

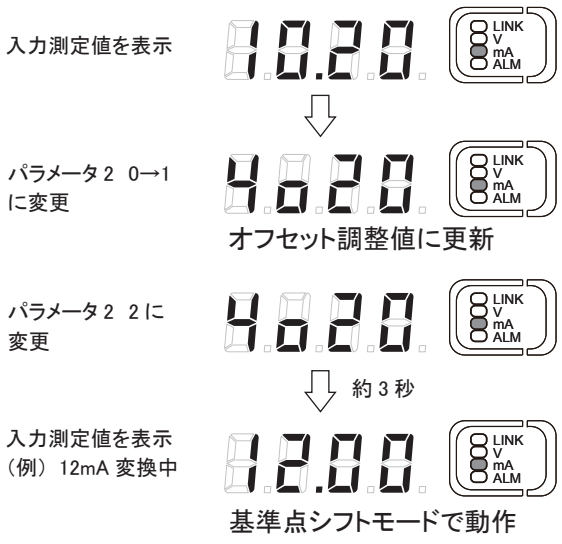
伝送信号を受信し起動すると、 約 3 秒間設定された入力仕様を表示しその後実際の入力値表示に切り替わります。

例） 4–20mA 仕様に設定し動作させた場合

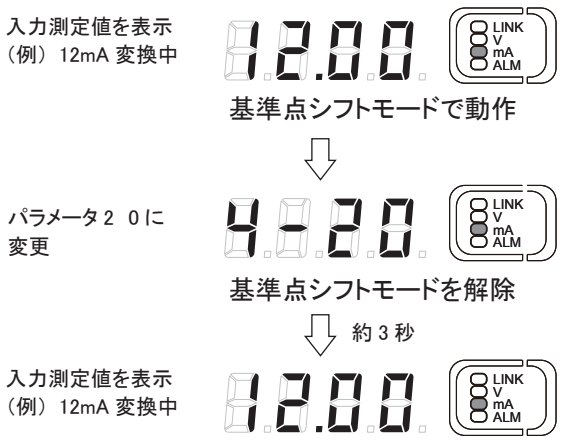
■そのまま使用する場合

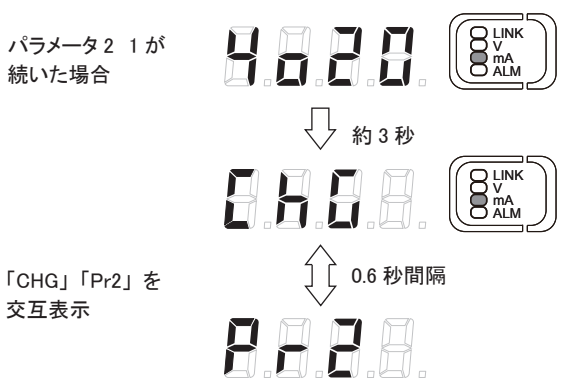


■基準点シフトモードを使用する場合



■基準点シフトモードを解除する場合

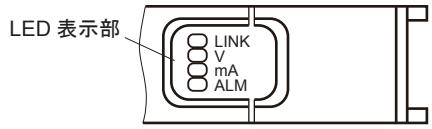




【トラブルシューティング】

本体の表示窓で以下のエラー表示がされた場合は、 次のように対処してください。

LINK	IN	ALM	原因	処置
○ 消灯	○ 消灯	○ 消灯	・ASLINKAMPに電源 ・AnyWireASLINK 伝送信号が接続されていない。 ・AnyWireASLINK システム自体の電源が入っていない。	・ASLINKAMPとAnyWireASLINK システム間が断線していないか確認し接続を修復してください。 ・AnyWireASLINKシステムの電源状況を確認し、電源を投入してください。
● 点灯	○ 消灯	○ 消灯	・DP-DN線が直接24-0V電源に接続されています。	・AnyWireASLINKシステムへ接続しなおしてください。
◎ 点滅 (0.5秒交互)	○ 消灯	◎ 点滅 (0.5秒交互)	・ASLINKAMPがアドレス255（出荷時設定）のままになっています。	・255以外でアドレス設定してください。
			・ASLINKAMPが別のユニットとアドレス重複しています。	・他に同じエラー表示になっているユニットを探して、それと異なるアドレスを設定してください。
―	―	◎ 点滅 (0.2秒点灯 1.0秒消灯)	・ASLINKAMPの内部電源電圧が低下しています。	・同じAnyWireASLINKシステムに接続されているユニットの数を減らしてください。 ・ASLINKAMPとマスタユニット間の伝送線を短くしてください。

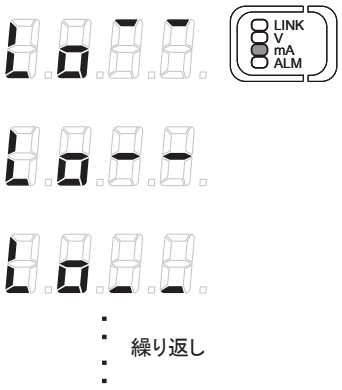


LED 表示部は、 親機、 子機とも同じです。

7 セグ表示部にもメッセージが表示されますので、 参考にしてください。

■入力異常検知

入力値下限オーバー



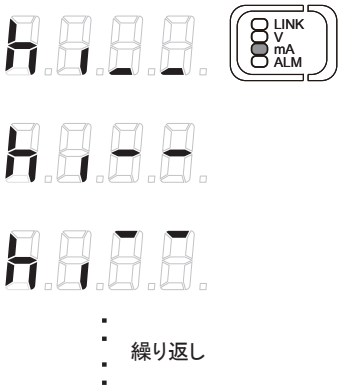
アナログ出力を接続するか断線等が無いか確認してください。
入力値を確認し仕様範囲内でご使用ください。

■入力異常
アナログポートがオープン、 断線の場合の表示例

0-10V ：0.00□（末尾不定）
0-5V ：0.00□（末尾不定）
1-5V ：Lo _ _
0-20mA ：0.00□（末尾不定）
4-20mA ：Lo _ _

ALM 消灯
デジタルデータ：-200(FF38Hex.)

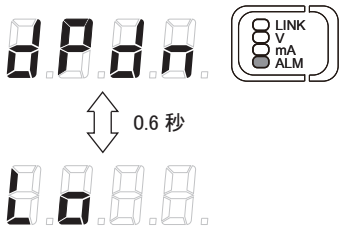
入力値上限オーバー



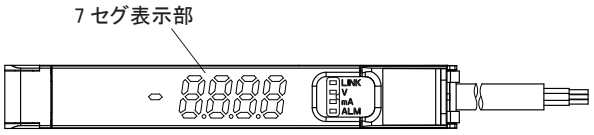
入力値を確認し仕様範囲内でご使用ください。

ALM 消灯
デジタルデータ：16200(3F48Hex.)

■ユニット電圧（DP-DN）低下検知



次の点を確認し、 該当要因を取り除いてください。
・ AnyWireASLINK マスタに供給する DC24V 電源の電圧が許容電圧範囲にあるか
・ 幹線、 支線での接続部に緩みや接触不要が無いか
・ ユニット、 接続負荷の電流がシステム条件に適合しているか



表示部は、 親機、 子機とも同じです。

ARW-04 で以下のエラー表示がされた場合は、 次のように対処してください。

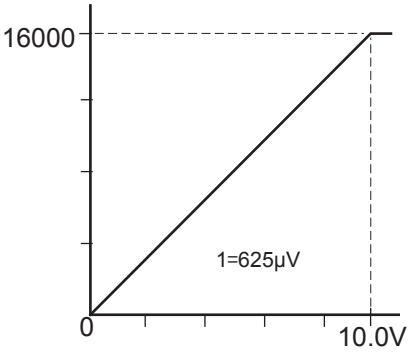
表示	原因	対処
【***Err】	設定パラメータが不正です	パラメータ対応表を確認の上、 正しいパラメータを設定してください

以下のような場合は次のように対処してください。

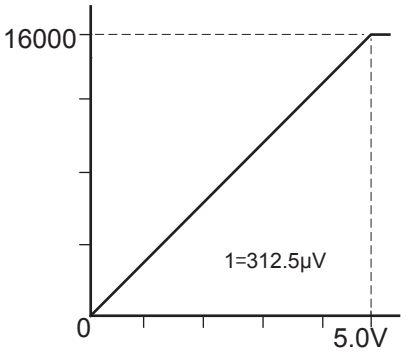
症状	対処
検出ができない	・配線は正しいですか？ → アナログポートおよび伝送線の接続を再確認してください。 ・AnyWireASLINKシステムに電源は投入されていますか？ → 電源を確認してください。 ・アドレス設定は行いましたか？ → アドレス設定を行ってください。 ・定格の入力範囲内で使用していますか？ → 定格の検出範囲内で使用してください。
ARW-04、ARW-03で設定ができない	・配線は正しいですか？ → 伝送線の接続、伝送信号が印加されているか再確認してください。 ・AnyWireASLINKシステムに電源は投入されていますか？ → 電源を確認してください。 ・保護カバーを開いて設定していますか？ → 保護カバーを開いてください。閉じたままでは設定できません。 ・設定パラメータは正しいですか？ → パラメータ対応表を確認の上、正しいパラメータを設定してください。

【データ特性例】

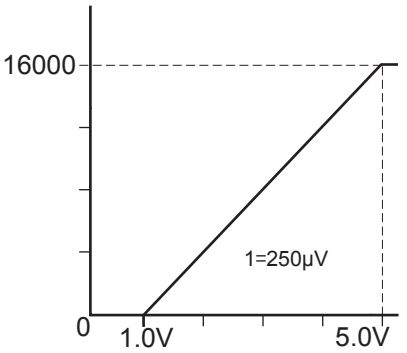
0 ～ 10V



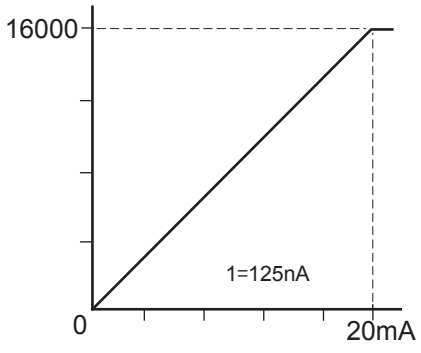
0 ～ 5V



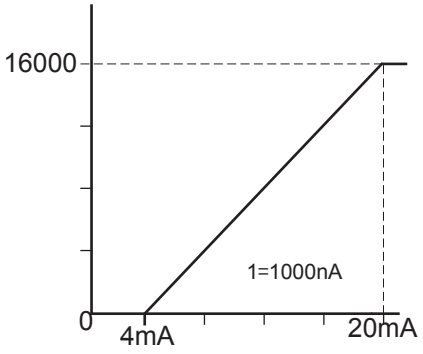
1 ～ 5V



0 ～ 20mA



4 ～ 20mA



【仕　様】

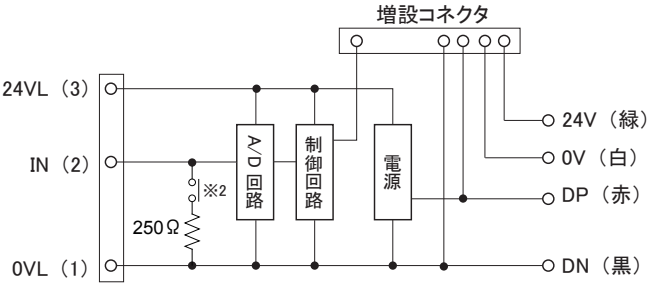
■一般仕様

項目	内容
使用周囲温度/湿度	0～55℃、10～90%RH（結露なき事）
保存周囲温度/湿度	-25～75℃、10～90%RH（結露なき事）
使用雰囲気	腐食性ガスがない事
使用標高	0～2000m
汚染度	2以下

■性能仕様

占有点数	入力16点（親機）		
	入力16点（子機）		
RAS機能	伝送線断線、伝送線短絡、伝送電源低下検知		
電源電圧	定格電圧：DC24V、許容電圧範囲：DC21.6～27.6V		
消費電流	10mA（DP-DN）（親機）		
	10mA（DP-DN）（子機）		
伝送プロトコル	専用プロトコル		
アナログ入力CH数	1CH（親機）		
	1CH（子機）		
測定電圧レンジ	0-10V、0-5V、1-5V（入力インピーダンス100kΩ以上）		
測定電流レンジ	0-20mA、4-20mA（入力インピーダンス250Ω±5%以内）		
精度 （25℃）	±0.1%（16digit）		
（0～55℃）	±0.2%（32digit）		
入力特性・分解能	入力レンジ	デジタル出力値	分解能
	0-10V	0-16000	625uV
	0-5V	0-16000	312.5uV
	1-5V	0-16000	250uV
	0-20mA	0-16000	1250nA
	4-20mA	0-16000	1000nA
入力異常	アナログポートオープン、断線 ： デジタル値-200、ALM表示消灯		
入力値オーバー	下限値オーバー ： デジタル値-200、ALM表示点灯、Lo_表示		
	上限値オーバー ： デジタル値-16200、ALM表示点灯、hi¯表示		
外部供給電流	24V-0V間 最大100mA/CH、増設時合計　最大800mA		
絶対最大入力	12V、30mA		
外形寸法（mm）	36.7（H）×10.0（W）×72（D）		
質　　量	22g（親機）		
	17g（子機）		
ケーブル長（親機のみ）	200mm		

【内部回路】

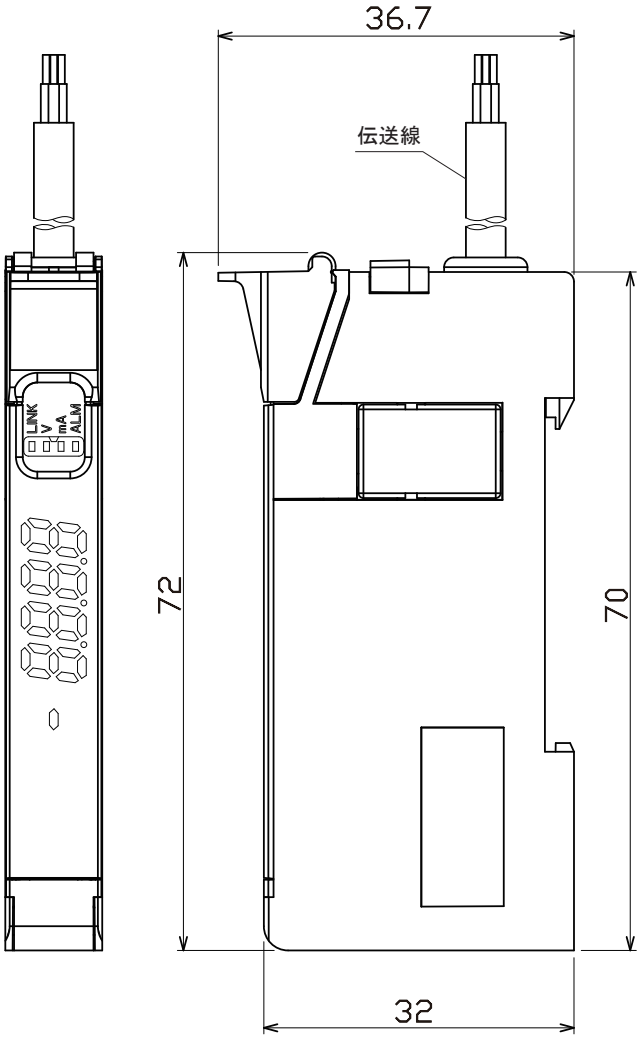


※2：電流入力設定時 ON

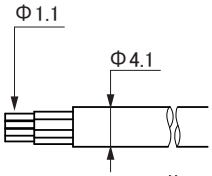
【外形寸法図】

単位：mm

■LA-A12W（親機）



■伝送線

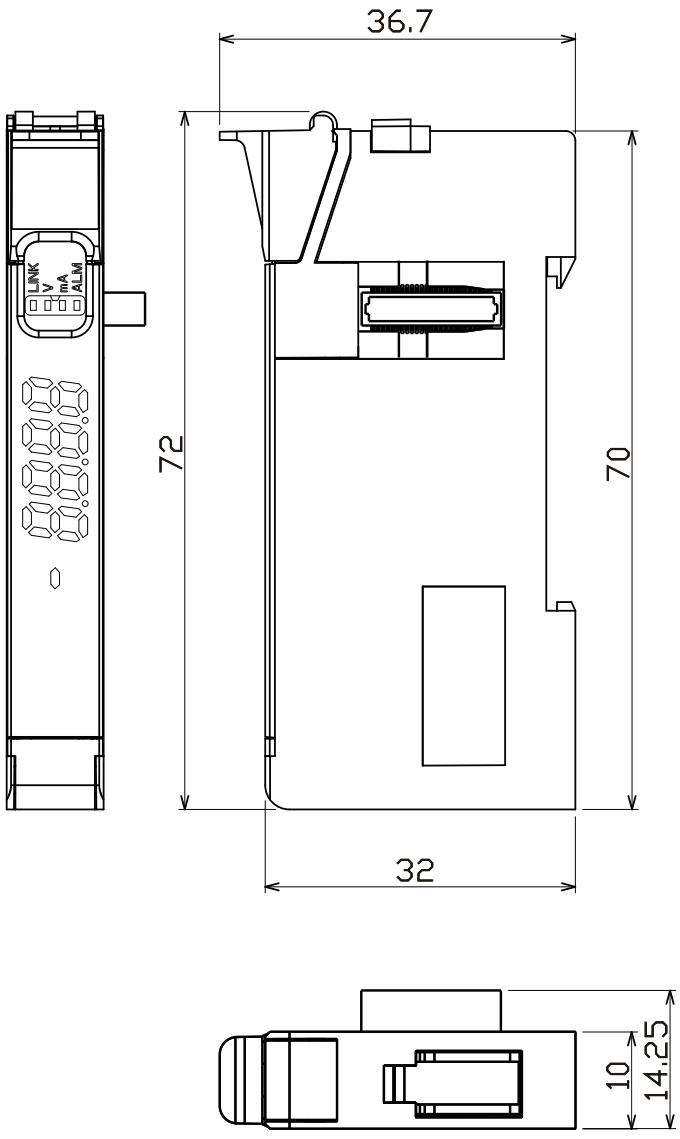


4 芯、 AWG24
ケーブル長 200mm

【外形寸法図】

単位：mm

■LB-A12W（子機）



【連絡先】

Anywire 株式会社エニイワイヤ

本　　社　：〒617-8550 京都府長岡京市馬場図所1
TEL:075-956-1611(代) / FAX:075-956-1613

西日本営業所　：〒617-8550 京都府長岡京市馬場図所1
TEL:075-956-4911 / FAX:075-956-1613

東日本営業所　：〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町47(新広栄ビル6F)
TEL:03-5209-5711 / FAX:03-5209-5713

中部営業所　：〒461-0048 愛知県名古屋市東区矢田南5-1-14
TEL:052-723-4611 / FAX:052-723-4683

九州営業所　：〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目15番2号(第6明星ビル 7F)
TEL:092-724-3711 / FAX:092-724-3713

サポートダイヤル　：075-952-8077

Printed in Japan 2015 UMA-11257A